広報
かつやま
Katsuyama City Newsletter
11月号
No.553
平成13年11月8日発行

CONTENTS

鉄路再生を目指す!
アクションプラン21
出会い ふれあい
Hot・話題

鉄路再生を目指す！

京福電鉄は10月19日、事故後の運転停止で経営に悪影響が出ていることなどを理由に、国土交通省中部運輸局に対して廃線届を提出。従業員を配置転換するなどして鉄道部を縮小し、「3セク化しても運転士などの人的協力はできない」との意向を発表しました。

鉄道事業法では廃線届の提出から1年後に廃線が可能となりますが、それまでに地元の受け入れ態勢が整えば路線を継承できることになっています。

県は12月県議会に向け、5つの検討項目（⑪高架化乗り入れの是非②LRVを使った新交通システムの可能性③バス専用レーンの可能性④沿線市町村の財政負担の覚悟⑤10年後も収支改善されないこと）について、プロジェクトチームを編成し課題分析を行っています。鉄道存続か、バス転換か、最終判断まであと1カ月。

今回の京福の判断によって運転再開が大幅に遅れることも懸念されますが、勝山市では沿線自治体と協力しながら、鉄道存続に向けて最後まで積極的に取り組んでいきます。

沿線首長会議
存続への意思確認

10月26日、京福電鉄の9つの沿線自治体による首長会議が県自治会館で開催されました。公務で首長が出席できない自治体もありましたが、それぞれの立場で意見を出し合い、今後の取り組み方などについて話し合いを行いました。

各自治体の方針や議会での状況などが報告される中で、県の活性化協議会で提示された3セクを設立するための経費の負担割合について審議が集中。

県自治会館で開かれた沿線首長会議

住民一人当たりの負担額に大きな差があることなどから、負担内容について再検討する必要があるとの意見が出されました。最終的に、一致して存続に向けて取り組むことを基本として、負担割合と経費の縮減について再度見直すよう知事に申し入れることを確認しました。

そのほか国会議員への要請など、首長としてできる限りの取り組みをすすめていくことを確認しました。

納得できる
経費算出を

経費負担割合の試案は、7月19日に開催された活性化協議会で提示されたもので、その後中部運輸局の改善命令による改修工事にかかる追加経費が9月7日に発表されました。しかし、事故による影響などから、経費の見直しなど具体的な論議がほとんどなされないまま時間が経過してきました。

鉄道の専門家も、「運営経費は圧縮できる可能性がある」との見方を示しており、内容の精査によって必要経費の総額を減少させることができると思われます。

沿線自治体では、「住民の理解を得るためにも、納得のできる経費の算出と負担割合の見直しが必要である」との意見が大勢を占めています。また、域内の生活環境を整備し高めていくために、県は公共交通機関を充実し、交通ネットワークの整備を図らなければなりません。そのためには、利用者の視点に立った利便性の向上と支援体制の確立が必要です。電車は9市町村にまたがる交通機関という見地から、県のリーダーシップと積極的な役割が求められています。

県活性化協議会で示された 3セク運営に必要な経費の試案

必要経費の試算（10年間）

	簿価で譲渡（億円）	評価額で譲渡（億円）
運転再開に必要な工事費	11.0	11.0
初期投資額	22.8	43.8
設備投資補助	58.6	58.6
欠損補助	30.8	30.8
連続立体交差負担金	8.9	8.9
合計	132.1	153.1

自治体別負担割合（10年間）

	自治体別負担金（億円）	人口1人あたりの負担額（円/1年間）	自治体別負担額（億円）	人口1人あたりの負担額（円/1年間）
福井県	83.6		94.1	
市町村計	47.2		57.7	
福井市	10.9	438	14.5	580
勝山市	9.0	3,147	10.3	3,588
上志比村	3.3	8,993	3.9	10,709
永平寺町	4.6	7,122	5.7	8,747
松岡町	2.4	2,354	3.0	2,856
春江町	3.3	1,382	4.1	1,738
坂井町	2.3	1,382	2.8	2,093
芦原町	4.8	3,434	5.7	4,117
三国町	6.7	2,753	7.8	3,227
民間	1.2		1.2	
合計	132.1		153.1	

★「簿価」は資産を帳簿価格で譲渡の場合。「評価額」は固定資産税評価額で譲渡の場合。
★市町村の負担割合は、均等割、駅勢圏人口、路線長、駅数、固定資産税評価額、乗車人キロ、財政力指数を指標として算出。

鉄路再生

代行バスで不便さ実証

6月24日の事故により、翌日から代行バスが運行されています。図らずも電車のない状況が続く中で、バスの不便さが実証され、これから迎える冬への不安感が増幅しています。

代行バスを下りて足早に職場に向かう通勤者（10/23 福井駅前）

時間繰り上げて乗車

電車衝突事故の翌朝に運行された代行バスは、事故による自動車通勤が増えたことも重なり、上志比村あたりから渋滞に。いつもの電車と同じ時刻に出発するバスに乗った人は、多くが会社や学校に遅刻したといいます。

翌日からは早めのバスに乗り換える人が増え、6時50分発のバスに乗客が集中しました。混雑と到着時間が中途半端なことから、7月6日からは6時30分発のバスが増便されました。

電車が走っているときには7時22分の急行に乗れば、8時5分に福井に到着して、じゅうぶん会社や学校に間に合いました。しかし今は、約30分以上早く出て、1時間ほどかけて福井に。それでも、日によって到着時刻にばらつきがあるといいます。

時間は延び、不快感増幅

6時50分に勝山駅を出発する2台のバスのうち、1台は東古市駅を経由せずに福井駅前へ、もう1台は東古市駅と田原町を経由して福井駅前に向かいます。前者は通勤者が、後者は高校生が中心です。後者のバスだと福井駅前まで約1時間10分前後。これ以降に出発するバスは渋滞のピークと重なり、1時間20分はかかります。

6時50分発の通勤者の多いバスには、勝山駅で約35人が乗車。上志比の山王あたりからは座れない乗客がいて、松岡を過ぎたあたりからは60人ほどの人がひしめき合って乗っています。上志比村から乗車した年配の男性は、「狭い空間で長時間バスに揺られるのはこたえる」といいます。雨の日などは、混雑した車内にぬれた傘を持ち込むため、乗客の不快感は増幅されるとも。

福井の高校に通う子どもをもつ親の中には、時間の関係でやむを得ず、学校まで自家用車で送っていく人もいます。

松岡町での渋滞。朝は福井まで、1時間20分ほどかかるバスがある。

冬が心配

夕方、福井の病院から代行バスで帰ってきた70歳の男性は、「自分は車の運転ができないので、廃線には絶対反対です」と語気を強めます。また、福井の専門学校に代行バスで通っている20歳の女性は、「雪が降ったら車にしようか、どうしようか悩んでいる」といい、慣れない冬の運転に不安を抱いています。

「雪が降るようになったら、福井までどれくらいかかるのだろうか。」「バスなら遅くても6時30分には乗らないと間に合わない。途中のアクシデントを考えると、2時間はみないといけないだろう。」

「冬が心配です。」

冬の積雪による渋滞は確実。バスではさらに時間がかかることになる。

市民から熱い思い続々

京福線の廃線論議が高まる中、市役所にはインターネットのメールや「市長への手紙」で、鉄道存続を願う便りが多数寄せられています。そのほとんどに、存続のための様々な提案が記載されています。中には専門的な知識を生かして、何枚にもわたる提案を出されたかたもおられます。

市では寄せられたそれぞれの提案を、存続への貴重なご意見として受け止め、具体的な検討資料として生かしていくことにしています。

存続を訴える「市長への手紙」。

『電車存続県民総決起大会』

今月18日 福井市で開催へ

市民組織としてこれまで先頭に立って存続運動を展開してきた勝山市の京福電車利用促進会議（滝川裕司会長）は、存廃の判断が12月に持ち越され、さらに京福が廃線届を出したことから、強い危機感をもっています。

そこで、沿線自治体の市民団体等と協力して福井市で『電車存続県民総決起大会』を開催し、地域住民の存続に対する強い決意を表明することになりました。その際には、「赤字を理由に現在の京福線に電車が走らなくなれば、他のローカル線も同様の道を歩むことになる」として、福武線や越美北線の沿線住民のほか、福井駅前の商店街などにも参加を呼びかけることにしています。

市民の皆さまにおかれましては、ぜひ参加いただきますよう、お願い申し上げます。

電車存続県民総決起大会

テーマ 『未来に残そう みんなの鉄道』

と き　11月18日（日）
午前11時～12時

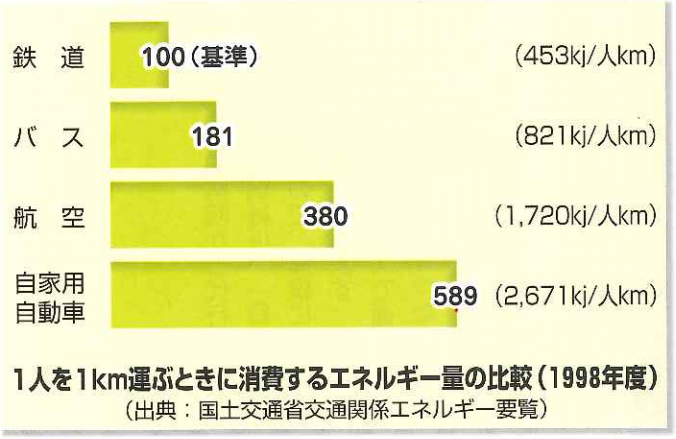
ところ　福井市中央公園

「大量輸送」

まず最初に挙げられるのが、「大量輸送」。鉄道は一度にたくさんの人を運べますから、エネルギー効率がいいということになります。1人を1km運ぶのに必要なエネルギー消費量を比較すると、鉄道のエネルギー消費量は自家用車の6分の1、バスの約半分になります。（左グラフ）従って、地球環境への負荷も少ないといえるでしょう。

ヨーロッパでは環境保護意識が高く、鉄道を見直す運動が起こっています。スイスでは1998年から「車のない街」づくりが始まりました。今ではヨーロッパのほかの国にも広がり、実施する街が増えています。ねらいは「車のない生活を考えてみること」。日を決めて、「自動車を使わずに街に遊びに来ませんか」との呼び込みでイベントを行っています。

勝山市と友好都市関係にある米国アスペン市では、自動車の増加によって環境への影響が懸念され、鉄道を復活させようとする活動が起きています。日本ではまだ事例は少ないのですが、これからはそのような視点で考えなければならない時代なのかもしれません。



1人を1km運ぶときに消費するエネルギー量の比較（1998年度）
（出典：国土交通省交通関係エネルギー要覧）

「定時制」

鉄道の利便性で次に挙げられるのが「定時制」。鉄道は気候や道路状況にほとんど影響を受けませんから、時間どおりに運行されます。雪が降る時期には、その利点をはっきり確認することができます。また、「雪国だからこそ鉄道が必要」とも言えます。次の駅での乗り継ぎも、予測を立てることができます。10月中旬に代行バスを利用した30代の女性は、途中で緊急自動車の出動による渋滞に巻き込まれ、福井駅での乗り継ぎに間に合いませんでした。「あらためて、電車の重要性を実感した」といいます。

経済効果も判断基準に

次に、経済効果について考えてみましょう。京福電車は大正3年に開通し、以来、福井県の発展に貢献してきました。現在も、福井市内への通勤や通学、買い物、観光など、各方面で経済効果を生み出しています。利用者が少ないとはいえ、そこで生み出されるプラス効果も、存続か否かの判断に加えるべきではないでしょうか。電車がなくなれば、様々な分野でのマイナス効果は計り知れません。特に、将来の勝山市勢に大きな影響を及ぼすことは間違いありません。

存廃問題は県都再生と深く関係

現在福井市では、駅前を中心とした再開発計画をすすめています。現状を見るとき、福井駅前に魅力がないために、電車で出かける人も増えないという見方もできます。逆に駅前に魅力があれば、万が一駐車場を整備したとしても、混雑を避けて電車を利用する人が増えることはじゅうぶん予測されます。「ニワトリが先か、卵が先か」といった話にもなりますが、県都再生論議の中に、鉄道を含めた交通体系のあり方をあらためて加えてほしいものです。

先日、福井駅前商店街の代表は、県知事に対して鉄道存続の陳情を提出しました。まさに、福井駅前で商売をする人たちにとっても、廃線問題は他人事ではなくなっています。

福井駅前で行われた中心市街地活性化に向けた社会実験。
県都再生には鉄道の位置づけが大きく影響する。

存続を訴える子どもたちのメッセージは伝わるか…。
（10/23 福井口駅にて）

鉄路再生

鉄道の利便性と必要性

ここでは、電車の利便性または必要性について、あらためて考えてみたいと思います。

鉄道は必要な社会資本

しかし、鉄道は実際に電車を運行する上で、大きなハンディを抱えています。それは、運行のための整備費用にあります。自動車が走る道路は全国くまなく整備され、舗装や信号機そして交通安全設備などすべてが税金でまかなわれています。しかし鉄道は、線路も、電車を走らせる電気設備も、車両もすべて民間の経営にゆだねられています。国や自治体からの助成制度はありますが、道路とは比べ物になりません。この違いが、鉄道経営に大きな影響を与えています。

山岸市長は一貫して「道路や福祉施設などと同じように、必要な社会資本としてとらえるべきである」と訴えています。公共性の高いものであれば、一定の税金を支出することは当然であるという考え方です。山岸市長はこれまでの存続運動の中でも、国や県に対して鉄道事業への助成拡大を求めて訴えてきました。

もし、「赤字」イコール「廃線」というのであれば、全国の地方鉄道はすべてなくなってしまいます。県内でも、越美北線や福武線、新たに作ろうとしている嶺南のリゾート新線も同じ過程を歩むことになります。

再開後は利用者の意識がカギ

次に、実際に第3セクターによる鉄道運行が決まった場合、現状のままでいいのでしょうか。経営の効率化は別問題として、沿線住民がまず電車を利用することが基本となります。そして、地域の電車として親しまれ、愛され、乗りやすい電車への再生が求められます。車両の色や内装などのイメージアップや、ダイヤ編成などいろいろ改善点が考えられます。特に、勝山ー福井間（27・8㎞）を「30分程度で走ってくれれば」という声はよく聞かれます。1日に何本かの快速を走らせるなど、自動車よりも早いというイメージは快適性と利用率アップにつながるはずです。

「自分は電車に乗ることがないから関係ない。」はたしてそれでいいのでしょうか。最もたいせつなことは、私たち住民の意識にあります。鉄道をどのようにとらえ、どのように活用していくのか、私たち一人ひとりの考え方が今、問われています。

子どもたちは次代を担う 勝山の宝

教育に関心を！

勝山市では、次代を担う子どもたちを育てるために、私たち一人ひとりが教育に関心をもち具体的に行動する計画『アクションプラン21』を策定します。

『アクションプラン21』は市民自ら考え行動する、市民主導の事業です。子どもたちの教育について、そして子育てについて、自分に、家族に、学校に、社会に問いかけてみましょう。そして、よいところはもっと伸ばし、よくないところは改める勇気をもちましょう。

教育の大きな変革期

学校では平成14年度から新しい学習指導要領による教育が実施され、学校週5日制も始まります。また、体験を重視し実践力を育むことなどを目指して、『総合的な学習』が導入されるなど、教育内容や方法が大きく変わろうとしています。

一方では、青少年の問題行動が日常化するなど、いたるところで教育の荒廃が語られ、教育改革が叫ばれています。市内でも、不登校や暴力行為、万引きや深夜徘徊、マナー低下など、青少年の問題が表面化し、放っておけない状況になりつつあります。

教育改革

“アクションプラン21”策定へ

このような現状を見るとき、子どもたちをどのように育て、どのように教育するかは、市民共通の課題としてとらえなければならないと考えています。

市民主導の運動 行動は足元から

勝山市では今年度、教育委員会が中心となって「勝山の教育改革」に取り組んでいます。その大きな柱の一つとして、『アクションプラン21』を策定していきます。『アクションプラン21』とは、行政主導ではなく、各家庭で、各地域で、各学校で行動プラン（行動するための目標）をつくり、共通理解のもとで子育てにあたろうというものです。

家庭、地域の行動プランは各町（各小学校区）単位で、学校の行動プランは各中学校区単位で、みなさんの意見を集約しながら策定する市民主導の運動です。これには、幼児教育・高校教育に関係するみなさんがたとも連携していきたいと考えています。

教育シンポジウム開催

現在、各種団体に改革の趣旨を説明して協力をお願いしていますが、準備委員会も設置しましたので、直ちに、児童・生徒の現状や教育に関するアンケート、聞き取り調査等を行い、それらを分析して、新年早々には教育改革の必要性について考えるシンポジウムを開催します。そして、各地区での話し合いへとすすめていきます。各家庭や地区で検討される『アクションプラン21』は、策定作業が終了次第、それぞれで実践していただきたいと思います。

『アクションプラン21』を実践し効果を上げるためには、市民をはじめ各種団体のみなさんのご理解とご協力がぜひとも必要です。「勝山市の子どもは勝山市民が育てる」との強い意志のもとに、今一度、子育てと教育について関心をもち、青少年の健全育成を目指し、市民の総力で次代を担う“宝”である子どもたちを育てましょう。

背中で示そう 豊かな生き方を

教育の問題の多くは、私たちおとなの問題であると考えています。私たちおとながマナー向上を目指し、心豊かに暮らすことができれば、子どもたちも健やかに育つと考えています。

地域の活動に参加し、勝山のよさを見つけ、それらを守り、よりよいふるさとをつくることが、私たちおとなの責務であり、人づくりにおいて最もたいせつなことであると考えています。

（エコミュージアム構想、ふるさとルネッサンス運動とも関連しています。）

アクションプラン21 策定手順

現状分析
↓
教育シンポジウム
↓
家庭・地域における行動目標作成（各町単位で）
学校における行動目標作成（各中学校区単位で）
↓
各地区・学校の行動計画をまとめ、実践する

「アクションプラン21」に関するお問い合わせは、教育委員会（☎内線470番）まで。

平成12年度 水道事業会計事業報告

平成12年度においては、法恩寺浄水場及び関連工事を完成し供用開始するとともに、石綿セメント管の更新事業等を実施しました。

また、より良い水を供給するため水源井戸の浚渫（井戸の底の泥をさらって深くすること）と滅菌設備の改良等をすすめ、80万人規模で開催された恐竜エキスポのイベント会場への給水確保に努めました。

拡張事業

第6次拡張変更事業に基づき、法恩寺浄水場築造工事として、膜ろ過施設、取水施設、導水管布設等を施工しました。また、千代田、郡、浄土寺地係において配水管の布設、長山町地係で送水管の布設工事を施工し、拡張事業費は7億1365万9千円となりました。

改良工事

下毛屋、郡町1丁目、滝波町4丁目地係において石綿セメント管更新を実施しました。また、若猪野水源3号井戸浚渫改良と若猪野水源地及び新道配水池の滅菌設備改良を行いました。

給水状況

総配水量は313万3000㎥で前年度比3・0%の増、使用量は268万8000㎥で前年度より4・0%の増となりました。有収率は前年に比べて1・4ポイント上昇し、85・78%となりました。

財政状況

総事業収益は3億4864万8000円、事業費用は3億939万2千円で純利益は3925万6千円となりました。

また、資本的収入は企業債を含めて7億8565万3000円、建設改良費や企業債償還金などの支出合計は9億692万1000円となり、収入額が支出額に対して不足する額は、当年度分損益勘定留保資金、建設改良積立金で補てんしました。

法恩寺浄水場膜ろ過施設

上水道業務状況

項目	業務量	前年度比
給水人口	22,409人	+0.02%
給水戸数	6,154戸	+1.32%
年間総配水量	3,133,245㎥	+3.03%
年間有収水量	2,287,824㎥	+4.79%
有収率	85.78%	+1.71%
導送排水管延長	220,981.0m	+1.62%

クリーンセンター解体工事

施設内洗浄後に取り壊しへ

昨年4月から運転が停止していたごみ焼却施設「クリーンセンター」の解体工事が、このほど始まりました。

あらかじめ有害物質の検査を実施し、その結果に基づいて除去方法を決定しました。最初に施設内の洗浄作業を行い、本体の取り壊しにかかります。

工事の終了は来春の予定です。

平成13年度

教育委員会表彰

11月3日「文化の日」、市民会館で平成13年度教育委員会表彰式が行われました。

文化活動、学校教育、社会体育などの各分野で活躍した個人21人、7団体が表彰されました。児童生徒の表彰は各学校で行われました。

表彰を受けたのは、次のみなさんです。　(敬称略)

文化賞

大六輝夫（61）＝平泉寺町平泉寺

昭和31年より稲村雲洞氏に入門以来、書道において数々の賞を受賞するなど、書道の普及指導の先頭にたってきた。

文化功労賞

笠松久子（72）＝郡町1丁目

「俳句」創作活動に精進し、俳句大会では、数多くの賞を受賞するなど、県の第一人者的存在である。

学校教育賞

安岡信子（53）＝芳野町2丁目

9年間、研究主任として学校教育の研究推進に尽力し、児童教育を大きく発展させた。

学校教育奨励賞

天野恭子（49）＝猪野

ブラスバンド部を吹奏楽コンクールで入賞に導くなど、音楽教育の発展に尽力している。

尾崎比左惠（47）＝鹿谷町矢戸口

国語教育に努力するとともに、図書館教育でも読書習慣の定着を目指し、指導に尽力している。

乾　一雄（47）＝北郷町西妙金島

研究大会などの推進や学校教育指導要領改訂に伴う整備などに尽力し、大きな成果を挙げている。

廣瀬介治（46）＝猪野口

中学校の社会科教育に精励し、教科指導員としても推進役を果たすなどリーダーとしての力量を発揮している。

社会体育功労賞

藤澤七郎兵衛（69）＝滝波町3丁目

村岡町体育協会会長を11年間、副会長を8年間務め、地域のスポーツ振興と町民の健康増進に尽力してきた。

スポーツ賞

勝山バレーボール男子チーム（県民体育大会バレーボール3年連続優勝）

勝山バレーボール女子チーム（第53回県民体育大会バレーボール優勝）

学校文化賞

▼**読書感想画コンクール**＝大森奈津子（成器南小3年）▼**県明るい選挙啓発ポスターコンクール**＝松村日花里（成器南小3年）▼**県競書会書写作品コンクール**＝宇佐見恵理（勝山高校1年）▼**吹奏楽**＝勝山高校ブラスバンド部・南部中学校ブラスバンド部・中部中学校ブラスバンド部

学校スポーツ賞

バドミントン▼勝山南部ジュニアバドミントンクラブ・県男子小学生バドミントンチーム・松浦正輝（成器南小6年）・千京史知（南部中1年）・片岸史治（南部中1年）・松浦亮太（南部中3年）・南一輝（南部中3年）・竹内宏徳（中部中1年）・竹内啓哉（中部中1年）・中村紋子（北部中3年）・山内結香（北部中3年）▼**陸上**＝嶋田忠幸（勝山高校3年）

「かおり風景100選」平泉寺の杉と苔のかおり選ばれる

環境省が選定する「かおり風景100選」に福井県で唯一、平泉寺白山神社境内の杉と蘚苔（せんたい）のかおりが選ばれました。

同事業は、"かおり"の源となる自然や文化を保全しようと今年度新たに新設されたもので、平泉寺においては地域の人々との関わりと保全活動の内容なども高く評価されました。

熱心な提案多く

電車存続など164件

「市長への手紙」集計報告

9月の市民提案月間にあわせて「市長への手紙」と題して、市政に関する意見や提案を募集しました。今年は、山岸市長が新しく市政を担うようになったということもあり、10月下旬までに91通、164項目と、数多くの手紙が寄せられました。

内訳は、建設9件、施設31件、まちづくり21件、交通28件(内電車関係21件)、産業5件、市民・福祉7件、観光3件、行政一般20件、文化関係1件、教育一般9件、保健・環境18件、商業・娯楽3件、その他9件となっています。

最も多かった電車関連では、早期運転再開を要望する意見がほとんどで、存廃に対する市民の関心の高さが伺えます。また、存続のための様々なアイデアや提案が寄せられました。

まちづくり関係では、自然・文化・歴史などを活かしたまちづくりをしてほしいという、勝山を活性化させるための一つの方法である「エコミュージアム構想」を反映した意見が多くありました。

産業関係では、若者が働ける職場を増やし、若者の定着を図ってほしいとった内容が、市民・福祉関係では、障害者にもやさしいまちになることを希望する意見などがありました。

教育関係では、学校週5日制になることに対する児童センターの充実を求める要望が、保健・環境関係では、環境美化推進に関するものやウォーキング関連行事の開催を希望する意見がありました。

行政関係では、市町村合併や、各種委員会の構成に関する意見が多数寄せられました。

寄せられた手紙はすべて、山岸市長が目を通しました。市では提案内容を検討するとともに、今後の市政運営の参考にさせていただきます。ご意見、ご協力ありがとうございました。

ユニークな提案

◆北谷周辺のきれいな水を利用してわさびの生産を行う。

◆県立恐竜博物館職員に学校の授業に参加してもらったり、実験や観察等の指導をしてもらったりする。

市民対話集会

第6回

市長と語ろう明日の勝山

ふるさとルネッサンスの集い

テーマ「市町村合併」

今回のテーマは「市町村合併」です。

現在、全国の市町村数は約3,200ですが、国は自主的な市町村合併を積極的に推進することで、市町村数1,000を目標にした再編をすすめるとしています。

これを受けて福井県では合併懇話会を組織、県内市町村の合併パターンを発表してブロック別のシンポジウムなどを開催しています。勝山市では庁内に研究会を立ち上げ、合併のメリット、デメリットについて、また周辺市町村との様々な合併パターンについての研究を始めています。

今回の対話集会では、これらの現状を市民のみなさんにお伝えし、行政と市民が一体となって「市町村合併」の是非や方向性について考えていく第一歩にしたいと考えています。

多数のみなさんの参加をお待ちしています。

とき 11月29日（木）午後7時～9時

ところ 教育福祉会館1階ホール